



みんな村通信 vol.4

～成田周辺農村への架け橋を作ります～



みなさん夏野菜は植えましたか？オクラ、空心菜、ゴーヤ、キュウリ、モロヘイヤ、サツマ芋などは今からでも大丈夫です。夏の実野菜は収穫が続けられて楽しい時期♪まだの人は今からでも遅くありませんよ。

■エコロジカル・フットプリント

今はSDG'sが有名ですが、「エコロジカル・フットプリント」という言葉はご存知でしょうか？10年ぐらい前に知ったこの言葉は、その後の私のライフスタイルに大きな影響を与えている言葉です。

簡単に言うと「今の生活水準を保つためにどれだけ地球が必要なのか」を指標化したものです。食べ物を作る土地、それは野菜に限らず家畜を放牧する土地やそのエサを作る土地、そのエサを作るための肥料を作る土地。魚だったら川や海、あるいは紙や木材、あるいは生き物が吐いたり輸送や生産活動で出す二酸化炭素を吸収するために必要な森林の量なども全て含んで、どのぐらいの土地が必要か？を計算したものです、

全世界で見ると、なんと既に地球を1.6個分を使っていることになり、既に地球の再生能力を超えてしまっているそうです。（ちなみにコロナで去年は10%減りました）つまり、子孫から前借りをされていて、既にこのままいけば破綻することがわかっています。2030年には地球2個分になると言われています。

また、今の日本人の平均的な生活スタイルを世界各国の人がやったとすると、地球は3個あっても足りないそうです。（9年前は2個でした）アメリカになると、地球は5個あっても足りない計算となります。よ～く考えてみると、とんでもない状態なんです。

もし、みなさんが「日本人の平均的な生活水準レベルぐらいは、世界中の人もなるべきだ」、と思っているのであれば、地球は3個必要と考えている、ということになります。つまり、自分が「日本の平均的な生活」をしているのであれば、「地球を破綻に追い込む生活をしている」ということなんです。私は衝撃を受けました。

例えば家畜飼料、小麦、大豆、石油、衣類の原料なども輸入品です。木材も価格が安い海外の森林をばっさばっさと伐採したものを輸入しています。これらの輸送に使うエネルギーも膨大になります。私は自然素材と言われるパームオイルを作る現場をマレーシアで見たことがありますが、車で30分行ってもパームヤシの木だけ！そこを20年に1回ぐらい植え替えのために焼き尽くすそうです！そのCO2排出量は想像できないほどです。

例えば高柳さんの「修理すると新品を買うのと同じぐらいかかって出来ただけ俺は修理するな」という考え方に私は賛同していて、我が家は未だにブラウン管TVです。だって壊れないんだもの（笑）私たちの生活スタイルは子ども達のお手本になっているか自問自答すると、「物にも命がある」という思いを持ち、壊れたものは直し、新しいものより手元の物を最後まで使い切る、といった昔ながらの生活に少しでも戻ることはとても大切な気がします。

■今の時期の畑作業



暑さが大好きな野菜の播種や苗の移植を



2月からミニトマトを題材に「苗床作り」「種蒔き」「鉢換え」「移植」と学んで来ましたが、今日はヒマワリで種蒔きの復習をしましょう。また、畑やプランターでも良いので、是非、実践して不明点はどしどし聞いて下さい。暑さに強いオクラやウリ科なら今蒔いても夏に十分間に合いますよ。

- ・種の蒔き時：オクラ、空心菜、落花生、ヒマワリ、ゴマなど
- ・苗の植え時：ゴーヤ、キュウリ、スイカなどのウリ科、シソ、バジル、パクチーなどの葉物、トウモロコシ、サツマイモなど

■今月のお勧め：『あなたと健康』『家庭でできる自然療法』

東城百合子さんの「自然に学ぶ生き方」

東城先生は「自然に学ぶ生き方運動」や「健康運動」を人生をかけて行ってきた方で、この教室の参加者の半数が知っている年もありました。昨年、90歳を過ぎて亡くなられましたが、高柳さんの師匠の無着先生と同世代で、昔の日本を良く知っている最後の世代の1人でした。ガンや重い病気などをした人の駆け込み寺になっているような方で、5～6年前に私も体をかなり壊したことがあったのですが、その時は東城先生の書いていることが身に染み入るようでした。私はその経験を積めたので「有り難かったな～」と思います。

著書の「自然療法」はベスト&ロングセラーで、自然育児を目指す人は大概知っていますが、ほんわかした本ではなく、高柳さんが良く話題に出す「川島四郎先生」の考えや「赤本」を継ぐような日本の伝統療法や自然治癒の思想をまとめた骨太の内容の本になっています。また、昭和48年に創刊された月刊誌の「あなたと健康」は肝が座ったおばあちゃんが礼儀や自然への感謝を知らない近代人の生き方を鍛え直す叱咤激励の本のようになっています。「健康のため、あるいは病気を治す手段として食事療法・手当てを学ぶ」という人には、「枝葉だけ見て根を見ていない！」というのが東城先生の指導です。例えば、玄米菜食が良いからと言って子どもに白砂糖や化学物質が入ったものを一切食べさせない親御さんの窮屈な考えから逆に病気になるお子さんがいたりすると。「病気が悪いんじゃない。その病気を招いた不自然な凝り固まった考え方、根性＝生き方・考え方の根が悪いのよ！」というお叱りを受けて育てられた方が全国に数多くいます。

有機農業も同じで、「農薬が危険だから、安心・安全な有機野菜を食べる」とか「食べものは栄養素」という捉え方からしか見れないと、「食は命」とい



う意味までで迎り着けませんものね。「身土不二」といった言葉も含めて、人間もその土地に住んでいる生き物で、暑い時には同じ暑さを受けてたくましく育った野菜を食べることで、命を強めることができる。そういったことを考えると人間も自然の一部であり、住んでいる地域や環境を守っていくのは当然のことであり、そこに毒物は撒いてはいけないといった考え方、生き方になると思います。それは結局、昔の人が次世代の事も考えながら実践していた生活に行きつくんだな～と思う今日この頃です。